

令和6年度
学生生活実態調査
報告書
(学部・大学院)

令和7年3月



広島大学

はじめに

大学は最先端の研究を推進するとともに、その成果を教育に反映させ、社会に貢献できる有能な人材を養成することが重要な社会的役割の一つとなっています。そのため、大学で学ぶ学生には、講義や演習、実験実習、研究活動等を通してさまざまな知識やスキルを修得し、深い教養と高い専門性を身に付けることで、現代社会における諸課題に対して批判的でありながらも建設的にアプローチする能力を身につけ、課題解決に向けて挑戦し続ける行動力が求められています。そのためにも、学生時代だからこそできる経験や学びを大切にし、さまざまなことに挑戦してもらいたいと考えています。また、生涯にわたって語り合うことのできる友を得ることも、これからの人生を豊かにしていく上でとても大切なことだと思います。

学生の皆さんが安心して大学で学ぶためには、授業等に費やす時間が十分に確保され、経済的にも安定した生活を送ることが望まれます。課外活動においては、学部を超えた先輩後輩や友人とのつながりを通して、自主的かつ協調的に活動していくことを学んでほしいと思います。日々の生活においては、心身の健康に留意し、事故や犯罪、トラブル等に巻き込まれることない安全で安心できる生活を送ってもらいたいと願っています。そのため大学では、学生の学修や課外活動、生活全般、心身の健康等を支えるため、チューターや学生生活支援グループ、保健管理センター、各部局の学生支援室等でさまざまな支援を行っています。その支援が適切なものとなっているか、どのような課題や問題を抱えているかを把握しなければ、大学として適切な対応をすることができません。そのためには学生の生活実態を把握することが大切になります。

2024年度の学生生活実態調査は、全学の学部生、大学院生、専攻科学生を対象に、2024年12月6日から19日にかけて、Microsoft FormsによるWEB調査を実施しました。2024年度の調査は、新型コロナウイルス感染症の終結を受けて日常生活が戻ってきた最初の調査となります。そのため、コロナ禍（2020年度、2022年度）と比べて、学生生活がどのように変化をしたのかを知ることのできる重要な調査です。回答する学生の負担軽減のため、コロナ禍での生活に特化した項目を削除するとともに、調査項目を整理し項目数を減らしました。また、項目の回答カテゴリーも一部変更しています。今回の調査の回答者は、学部学生 2,260人（21.3%）、大学院生（特別専攻科を含む）1,121人（24.2%）の合計 3,381人（22.8%）でした。残念ながら、回答者は前回よりも1,125人、7.2ポイントも減少し、2020年度とほぼ同程度の水準となりました。忙しい中、回答していただいた学生の方々のご協力に感謝いたします。

2020年当初から世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症も2023年5月には季節性インフルエンザと同じ「5類」に分類され、さまざまな行動制限も解除されました。大学においても2022年度からは一部を除いて対面授業となり、課外活動もコロナ前と同じように行えるようになりました。ゆかたまつりや大学祭も開催することができ、多くの人々に来ていただくことができました。とはいえ、学生を取り巻く生活環境は大きく変化したのではないのでしょうか。友人との関わり方や生活様式の変化、アルバイト先の減少など、コロナの影響を引きずっているものも少なくありません。ポストコロナの環境下で、学生の皆さんが安心して大学生活を送ることができるよう考えていかなければなりません。今回の調査結果をもとに、学生がより安全で健全な大学生活を送るために、大学としてどのような支援を充実させていけば良いのかを考えていきたいと思っています。

令和7年3月

広島大学副学長（学生支援担当）

岩永 誠

目 次

I 調査の概要

1 調査期間，調査対象，調査方法-----	1
2 回答者の内訳-----	1

II 設問と回答分布

【学 部】

1 課外活動の参加状況-----	3
2 アルバイトの状況-----	4
3 経済状況-----	6
4 住居・通学の状況-----	8
5 修学の状況-----	10
6 学生生活の状況-----	12

【大 学 院】

1 課外活動の参加状況-----	28
2 アルバイトの状況-----	29
3 経済状況-----	31
4 住居・通学の状況-----	33
5 修学の状況-----	35
6 学生生活の状況-----	37

III 資料 学生生活実態調査アンケート項目（もみじ画面）-----	53
------------------------------------	----